気力充実した50年度

本年度当支部の最大のニュースといえば，IFORS・TIMS合同国際会議が，東京の帝国ホテルから会場を京都国際会議場に移し，7月21日から26日までひらかれたことである．支部長の三根　久氏，前支部長の朝尾　正氏，本部理事の長谷川　利治氏を中心に，支部運営委員の方々に京都実行委員会に参加していただいた．合同国際会議が盛会のうちに大きなトラブルもなく終了した功績の何分の一かは，これら支部運営委員の方々の尽力によるものであろう．

第2のニュースといえば，11月5日から7日まで秋季研究発表会が大阪大学経済学部で行なわれたことである．本大会の準備・実施には，副支部長の西田　俊夫氏，田畑　吉雄氏をはじめとする大阪大学の支部会員諸氏があたられた．懇親会の目玉商品である樽酒といい，見学会に専売公社と日本酒メーカーを並べた点といい，ある意味でユニークな大会であったと思われる．そのユニークさはもちろん，本大会が無事に終了した功績もまた，これら支部会員諸氏のご尽力に帰すものであろう．

この欄で，合同国際会議，秋季研究発表会の報告をするのは場ちがいかもしれないが，両大会の準備・実施に当支部会員がはらった努力をご推察のうえ，ご容赦願いたい．

本年度，当支部独自の活動としては，「経営科学」19巻，第5，6号でふれた支部総会，特別講演会以外に，IFORS・TIMS 関連事業として，7月24日京都ホテルでひらいた，支部会員と海外からの会議参加者との懇親会がある．海外からの参加者は，R.L.Ackoff, E.Balas, R.H. Collcutt, J.H. Engel, D.R. Fulkerson, G.L. Klir, B.O.Koopman, J.D.C.Little, H.J.Miser, P.M. Morse, H.Muller-Merbach, P.V.Norden, P. Rivett, M.K. Starr, R.M. Thrall の各氏をはじめ29名に達し，支部からは，三根支部長，西田副支部長，朝尾前支部長ら27名が参加した．

支部会員の参加がいささか少ないのが残念であったが海外の一流研究者とじかに接しえたことは，はかりしれない意義をもつものと思われる．

このほか，例年行なっているOR研究講演会を下記のように4回開催した．

第1回　10月4日「地方行政のOR」

1) 報告「現状と課題」安田八十五氏(神戸商大)

2) パネル・ディスカッション「展望」

司会　伊賀　隆氏(神戸大)，パネリスト　安田八十五氏(神戸商大)，宮崎香紀氏(兵庫県)，横山良章氏(西宮市)，河崎俊二氏(神戸商大)，担当主査　河崎俊二氏

第2回　11月4日

「目的と評価について」田畑吉雄氏(大阪大)

「ランダム衝突過程とその極限分布について」西村彰一氏(東京工大)　担当主査　坂口　実氏(大阪大)

第3回　11月26日

「Simultaneous Computation-Algorithms and Computer Designs」N.R. Scott 氏(ミシガン大)

担当主査　三根　久氏(京都大)

第4回　12月12日

「広告計画について」長野祐弘氏(大阪府大)

「ある工場の生産計画について」西田光男氏(住友電工)

担当主査　加瀬滋男氏(大阪府大)

本年度中にあと4回開催する予定である．

当支部には，現在，正会員223名，学生会員35名，賛助会員16社が属している．合同国際会議，秋季研究発表会を消化し，余力の生じた現在こそ，いささかマンネリ化した支部活動を省りみる好機であろう．12月6日開かれた支部運営委員会においても，支部会員の利益になる新規事業，会員増強のための新規事業について活発な議論が行なわれた．写真は，同委員会出席者(左から前列：西田，三根，朝尾，加瀬，後列：児玉，茨木，栗栖(オブザーバー)，田畑)である．結論をえるには至らなかったものの，なんらかの形で51年度事業計画に結実するであろう．

(大野　勝久 記)

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．